

私たちの町の文化財

■第11話 味生池(あじうのいけ)と月感上人(げっかんしょうにん)

今回は月感上人の墓に因んで、味生池と月感上人の繋がりについて触れます。

月感上人の墓は、万日山の西麓に位置します。竹林の中に佇み、どっしりとした墓石は威厳を感じさせます。月感上人は、現在の熊本市中心区川原町に所在する延寿寺の住職で、高僧で名高く、仏教の信仰に卓見し、深い学識のある人物でした。

万日山・独鈷山・妙観山に囲まれた低地一帯には、かつて味生池と呼ばれる大きな溜池が存在しました。味生池は、『続日本紀』によると、和銅年間(708~715)に肥後国司道君首名(みちのきびのおびとな)が築いたと伝えられます。首名は農業・畜産を奨励しました。味生池という巨大な灌漑用溜池の築造は、民に大いに喜ばれました。この溜池は、長い間活用されましたが、加藤清正の治世に埋め立てられました。その後埋立地を水田として利用するのですが、これは月感上人の尽力があったからだといわれています。月感上人が池上村の地で開田事業を計画・実行した理由は、当時の村に農地が少なく、民が生計を立てるのに苦心していたためといわれています。こうした功績が認められ、月感上人は民から信頼され、今日に至るまで地域の方に愛される人物となりました。月感上人の墓、ぜひ一度お越し下さい。

熊本市文化振興課 藤島 志考氏

龍の伝説の言い伝えがある味生池つて灌漑用水用の巨大なため池だったんださ

